

本時のねらい

- 人物の心情に合った効果音を、録音した音読とのバランスに気をつけて、挿入することができる。
- 収録した音源を聞き合うことを通して、物語文から想像したことが表現されているか振り返ることができる。

本時における 1人1台端末の活用方法とそのねらい

- GarageBand (Apple) を活用し、音読を録音し効果音を挿入したものを聞いてみることで、自分が想像したことを客観的に振り返ることができる。
- 収録した音源をクラウドに保存することを通して、端末の基本的操作スキル（保存）を身に付けさせる。

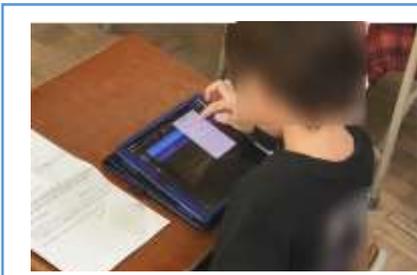
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・GarageBand (Apple)
- ・SKYMENU Cloud 提出箱
- ・大型モニタ

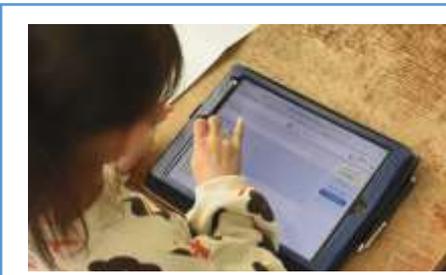
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○学習のめあてを確認する。 「そうぞうしたチロの気持ちがたつたわるように、「音どくラジオ」をつくってききあおう。」	○効果音の挿入の方法やポイントを大型モニタに GarageBand の画面を提示しながら確認する。 ※「音読ラジオ」とは音読した児童らの音声に効果音を挿入した音源のこと
展開 (30分)	○グループで録音した音読に GarageBand を使って、効果音を挿入する。 ・読み方の工夫を記入したワークシートをもとに、読み方の工夫に合う効果音を挿入し、「音読ラジオ」(音源)を作成する。 【写真1】	○前時までにグループごとに GarageBand を使って、音読を録音しておく。
まとめ (10分)	○保存された音源を聞き合い、登場人物の様子が表されていると感じる点を交流する。 【写真3】	○GarageBand を活用してつくった音源を1人1台端末にダウンロードしたり、SKYMENU Cloud にアップロードしたりする。

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】グループで録音した音読に、効果音を挿入している様子。



【写真2】音源を SKYMENU Cloud 提出箱に保存している様子。



【写真3】収録した音源を互いに聞き合い、交流している様子。

児童生徒の反応や変容

- 人物が喜んでいたり張り切り切っている叙述に注目して、効果音を選んでいく児童が多く見られた。
- グループの音読が聞きやすいように、効果音の音量の一部分を下げたり、効果音を重ねたりする等、児童1人ひとりの工夫が随所に見られた。
- クラウドに保存することで、家庭に端末を持ち帰った際、保護者等と一緒に音源を聞き、自分の音読や効果音の挿入について振り返ることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- 本単元の前に GarageBand を活用した学習活動（「朝のラジオ番組をつくろう」）を実施した。GarageBand の基本的な操作に慣れた段階で、本時の学習活動に取り組むことで、全児童がスムーズに効果音を選んだり、挿入したりすることができた。
- クラウドへの保存について、画像など簡単なものをクラウド上のフォルダに保存することを定期的に行うようにしていた。
- 前時まで学習活動（登場人物の心情を叙述に基づいて表現する活動）を模造紙にまとめて掲示した。効果音を挿入したり、音源を聞き合ったりする際に、掲示物を見ている児童の様子も見られた。